

基本計画 （政策１）

基本計画（政策１）

① 自助、共助に係る啓発について

事前質問	【回答票（政策１）番号１】 市内各団体が横のつながりを持つことで、自助、共助の大切さをより伝えることができるのではないか。
当日質問・意見	
回答	防災に関する発信にあたっては、単一的な視点での活動、周知啓発とはすることなく多方面から重層化した発信に努めていく。
審議	あり
委員	横のつながりを持とうとする姿勢に欠く印象を受ける。
市	地域の中で、消防団と自主防災組織が共に活動されている事例は承知している。つながりについては行政の働きかけのみにとどまらず、市が実施する様々な事業への参加等を通じ育んでいってもらいたいとの思いがある。そのような動きに対し、市の担当部署が支援を行っていければよいと考える。
委員	筑後市は災害が少なく、これまで所管部署の腰が重い印象であったが、各地での災害の多発により腰が上がりつつあると感じる。つながり作りについては、民間団体が言うより行政が言った方が聞く人が多いと考える。行政から強く発信することで、災害のみならず子育てなど他の政策領域においても良い影響が生じるのではないかと考える。
委員長	横のつながり作りのために、行政の動きを期待するという意見だったと捉えた。聞いていて行政と民間の両者で取り組んでいくことが大事ではないかと感じたところである。
取り扱い	☐ 答申書に掲載する／ ☒ 答申書に掲載しない ☐ 計画書の修正を求める／ ☒ 取り組みを求める／ ☐ 特に何も求めない
文言	
市対応	☐ 済／ ☐ 要／ ☐ 不要
事務局	
主管課	

② 施策 1-1 の成果指標について

事前質問	【回答票（政策１）番号２】 成果指標「災害による死傷者数」について、死傷者数が０であっても市の対策の成果なのか、災害の度合いによるものなのか判断できない。施策の進捗度を測定するにあたり、よりふさわしい指標があるのではないか。
当日質問・意見	
回答	前提となる考え方として、市民アンケートの設問を今以上に増やせない実情があり、業務取得可能な数値を設定している。災害時の死傷者数の結果は市の取り組みのみに起因するものではないが、災害被害を無くすことを最重要視する市の姿勢として現行の指標を設定している。めざす姿の達成状況の評価は、指標の達成状況のみならず、その要因等を明らかにする検証と分析を基に行っていく。
審議	あり

基本計画（政策１）

市	めざす姿の達成状況の把握のため、市民の意見を聞きたい事項は多く存在するが、市民アンケートの設問数をこれ以上増やせない現状があることについてはご理解をいただきたい。
	また、仮に死傷者が発生した場合、その原因が市の対応の不足によるものなのか、それ以外によるものかを分析したうえで、前者であれば必要な改善の検討を行っていくことになる。このように、数値の達成・未達成とあわせてその要因等についても分析を行ったうえでめざす姿の達成状況の判断を行うこととなる。このことを踏まえ、市として目指すべき姿としてこの目標値を設定している。
委員	市民アンケートの実情については理解した。他に使える数字があれば変更を求めたいという思いで記載した。
取り扱い	☐ 答申書に掲載する／ ☒ 答申書に掲載しない ☐ 計画書の修正を求める／ ☐ 取り組みを求める／ ☒ 特に何も求めない
文言	
市対応	☐ 済／ ☐ 要／ ☐ 不要
事務局	
主管課	

基本計画（政策１）

③ ちっご防災エキスパートの状況について

事前質問	【回答票（政策１）番号３】 行政職員に係る「ちっご防災エキスパート」の研修受講者の人数及び資格者の人数について。	
当日質問・意見		
回答	行政職員のうち、防災士有資格者は９名。「ちっご防災エキスパート養成講座」の受講実績は無し。	
審議	あり	
委員	行政職員の防災士有資格者９名にエキスパート養成講座の受講勧奨は行ったのか。	
市	勧奨していない。有資格者の９名は防災安全課に所属している（いた）職員であり、事務に関する知識向上を目的に資格を取得させている。	
委員	公費負担で防災士資格を取得した人が大勢いる。その人たちをエキスパートに引き込むための方策に欠いている。自身も公費負担で資格取得したため、使命感をもって活動に携わっている。今は宛職で防災士になっている人も多いと思うが、そのような時代ではない。意欲をもって手を挙げる人に資格取得させる方が、実のある税の活かし方となるのではないか。市の防災にとっても有効である。	
委員	防災エキスパート養成講座とは、防災士資格を取得したものの活動が低調で、年月が経過してしまった人が知識の更新のために学びなおすための講座なのか。	
市	そのようなケースもあるし、想いをもって活動している人が知識の向上、知識の更新を目的に受講するケースもある。市としては、受講後、地域で講師として活動するなどしてもらいたいと考えている。	
委員	年４回の講座が開講されているが、それで講師としての活動を期待されると少し重たいと感じる。市の期待に応じるためには講座の回数増など、育成を充実させる必要があると考える。	
市	講座の回数増については以前から意見をいただいていた。予算等の制約条件の中で今後検討していきたい。併せて、独自に勉強され資格取得される人もいる。市として防災士にどのような支援ができるかは検討したい。	
取り扱い	☐ 答申書に掲載する／ ☒ 答申書に掲載しない ☐ 計画書の修正を求める／ ☒ 取り組みを求める／ ☐ 特に何も求めない	
文言		
市対応	☐ 済／ ☐ 要／ ☐ 不要	
事務局		
主管課		

④ 基本事業 1-1-1 の成果指標「ちっご防災エキスパートの認定者数」について

事前質問	【回答票（政策１）番号４】 ちっご防災エキスパートとはどのような人か。また、目標値の設定は適切か。認定者の居住区域に偏りは生じないのか。
当日質問・意見	

基本計画（政策１）

回答	ちっご防災エキスパートは市独自に認定するものであり、防災士取得後の知識の更新や学びなおし、地域の防災リーダーの育成を目的としている。目標値は計画期間における世代交代等も見越し、実現可能性を踏まえ設定している。居住地の偏りは発生するものとして想定している。
審議	なし
取り扱い	☐ 答申書に掲載する／ ☒ 答申書に掲載しない ☐ 計画書の修正を求める／ ☐ 取り組みを求める／ ☒ 特に何も求めない
文言	
市対応	☐ 済／ ☐ 要／ ☐ 不要
事務局	
主管課	

基本計画（政策１）

⑤ 基本事業 1-1-1 の成果指標「個別避難計画策定希望者の計画策定割合」について

事前質問	【回答票（政策１）番号５】 この割合は個別避難計画策定を必要とする人に対する希望者の割合なのか、希望者に対する策定済者の割合なのか。前者であれば成果指標の変更が必要ではないか。後者であれば目標値設定の根拠は。	
当日質問・意見		
	回答	指標は、個別避難計画策定希望者に対する策定済者の割合。目標値はこれまでの最高値を基に設定。まずは希望者自身で策定してもらうこととしていることから、支援者がいないなどで策定に至らない人が一定数存在する。今年度以降、そのような人を対象に支援を行う予定。100%策定が理想だが、市の事業実施のみで実現できないため、実現可能性を踏まえた目標設定としている。
審議	あり	
	委員	支援者を探すといった手伝いを市は行わない前提なのか。
	市	R3～7 までの間、再度市全域を対象に個別避難計画の策定を行ってきた。この間は、まずは希望者自身での作成を依頼する方針としてきた。R8 以降は関係団体等と共に、支援者がいない人へのアプローチを進めていくこととしている。
	委員	100%策定に至らないのは自身の力ではつながりが持てない人がいる結果だろうと考える。市のアプローチによりつながりを作るという意識で取り組んでもらいたい。
	委員	個別避難計画については個人情報を含むため、発災時、警戒レベル５に至るまで開封できないと聞いた。警戒レベル５は緊急安全確保に当たり、自身の身を守る行動が必要とされ、これでは実運用に耐えない。運用の見直しが検討できないか。
	市	今の意見は校区コミュニティに渡している計画書に係る意見と理解する。計画書策定時に、コミュニティ協議会に計画書を渡すことまでは本人同意を取っていない。計画書の提出を求める協議会のみで渡しており、このような運用としているところ。最新の避難指示のルールにそぐわない部分が生じていることから運用については確認、検討したい。
取り扱い	☐ 答申書に掲載する／ ☒ 答申書に掲載しない ☐ 計画書の修正を求める／ ☒ 取り組みを求める／ ☐ 特に何も求めない	
	文言	
市対応	☐ 済／ ☐ 要／ ☐ 不要	
	事務局	
	主管課	

⑥ 基本事業 1-1-2 のめざす姿について

事前質問	【回答票（政策１）番号６】 交通事故減少のためには道路環境等のインフラや高齢者対策、啓発、警察との連携といった環境整備が重要と考える。このことを踏まえた「めざす姿」に修正の方が望ましいのではないか。
当日質問・	

基本計画（政策１）

意見	
回答	交通環境整備には国や県、警察などの様々な関係主体の協力を要する。本施策では「取り組みの方向性」に記載のとおり、周知啓発等の対応に焦点を絞る観点で「めざす姿」を作成している。
審議	あり
委員	市の関与余地が大きい領域に取り組みの重きを置きたいとの考えとして理解した。
取り扱い	☐ 答申書に掲載する／ ☒ 答申書に掲載しない ☐ 計画書の修正を求める／ ☐ 取り組みを求める／ ☒ 特に何も求めない
文言	
市対応	☐ 済／ ☐ 要／ ☐ 不要
事務局	
主管課	

⑦ 基本事業 1-1-2、1-1-3 の取組の方向性について

事前質問	【回答票（政策１）番号７】 「団体への活動支援」として記述されている団体とは具体的にどの団体を指すのか。
当日質問・意見	
回答	1-1-2 に記述の団体は「筑後市交通安全協会」及び「福岡県交通遺児を支える会」。1-1-3 に記述の団体は「筑後・大川・大木防犯協会」及び「筑後市保護司会」。このほか、「校区コミュニティ協議会」や「校区安全・安心まちづくり推進協議会」といった団体に対しても支援を行っている。
審議	なし
取り扱い	☐ 答申書に掲載する／ ☒ 答申書に掲載しない ☐ 計画書の修正を求める／ ☐ 取り組みを求める／ ☒ 特に何も求めない
文言	
市対応	☐ 済／ ☐ 要／ ☐ 不要
事務局	
主管課	

基本計画（政策１）

⑧ 基本事業 1-1-2 の成果指標について

事前質問	【回答票（政策１）番号８】 指標に設定している交通事故の捉え方及び目標値の根拠について
当日質問・意見	
回答	福岡県警公表の市町村別交通事故発生件数で、死亡、重症、軽症の人身事故が対象。物損事故は含まれない。過去５年間の「１,０００人当たりの事故率」及び将来推計人口を用い目標値を算出している。
審議	なし
取り扱い	☐ 答申書に掲載する／ ☒ 答申書に掲載しない ☐ 計画書の修正を求める／ ☐ 取り組みを求める／ ☒ 特に何も求めない
文言	
市対応	☐ 済／ ☐ 要／ ☐ 不要
事務局	
主管課	

⑨ 基本事業 1-1-3 の成果指標について

事前質問	【回答票（政策１）番号９】 DV や性犯罪等の被害届を出しにくい犯罪被害は認知件数として現れにくいことから、生活上の安全を判断する指標としての採用には慎重を期すべきではないか。
当日質問・意見	
回答	指摘の趣旨は理解したうえで、市が独自に把握できる数字が無いことから警察が公表する数値を採用している。
審議	なし
取り扱い	☐ 答申書に掲載する／ ☒ 答申書に掲載しない ☐ 計画書の修正を求める／ ☐ 取り組みを求める／ ☒ 特に何も求めない
文言	
市対応	☐ 済／ ☐ 要／ ☐ 不要
事務局	
主管課	

⑩ 施策 1-1 の課題及び取組の方向性について

事前質問	【回答票（政策１）番号１０】 課題及び取組の方向性に「地域内でのつながり」の視点が欠けていると考える。関連する記述の追記が必要ではないか。
当日質問・意見	
回答	「地域内でのつながり」は防災活動のほか、市が実施する様々な施策からつくられ、繋がっていくものと理解する。防災エキスパートによる地域の活動や、要支援者の個別避難計画の策定などの活動からも「地域内でのつながり」が生まれ、広がっていくものと考えている。施策 1-1 の「課題」には「助けあい（共助）の必要性」について記載しており、課題として認識するところである。

基本計画（政策１）

審議	あり
委員	防災こそつながりが必要との思いがあり、基本計画への記述がなされて欲しいとの願いがあった。せめて取組の方向性の記述の中に、つながりを意識した取り組みを行っていく旨の記載を入れてもらいたい。 また、地域福祉分野において使われる互助・共助とここでの互助・共助が示す状況に若干の相違がある。混乱を招くため、同じ市の政策の中で使う用語として用法をそろえる必要はないか。委員の皆様からの意見を伺いたい。
市	防災において、命の危険が生じる状況でつながりが生きてくることについては思いを同じくする。その思いのもと、施策の課題の記述を作成した。 互助・共助の言葉の用法については、防災に関しては全国的にこのような言葉の用法で使われている。担当課でもこの点は委員の皆様の意見を伺いたい。
委員	脚注等の必要性が無いかと考えていた。ここで使用する共助の意味を説明する必要性がないかと思ったところ。
取り扱い	☒ 答申書に掲載する／ ☐ 答申書に掲載しない ☒ 計画書の修正を求める／ ☐ 取り組みを求める／ ☐ 特に何も求めない
文言	「互助」「共助」の言葉の用法が政策領域により異なることから、脚注の挿入等により混乱を生じさせないように配慮していただきたい。
市対応	☐ 済／ ☐ 要／ ☐ 不要
事務局	
主管課	

⑪ 施策 1-2 の成果指標について

事前質問	【回答票（政策１）番号 11】 消防車や救急車を呼んだり利用したことがある人は全市民の割合としては少ないと考えられるなかで、消防・救急への市民満足度が消防力の実態を表すと言えるのか。
当日質問・意見	
回答	実際の消防・救急の利用者を対象とするのみならず、消防団や火災予防に関すること、消防・救急の出動といった全ての活動に対する評価と捉え、指標に設定している。
審議	なし
取り扱い	☐ 答申書に掲載する／ ☒ 答申書に掲載しない ☐ 計画書の修正を求める／ ☐ 取り組みを求める／ ☒ 特に何も求めない
文言	
市対応	☐ 済／ ☐ 要／ ☐ 不要
事務局	
主管課	

基本計画（政策１）

⑫ 施策 1-2 の課題及び取組の方向性について

事前質問	【回答票（政策１）番号 12】 課題に「訪問型火災予防啓発の困難化」「リチウムイオン電池等の新たな火災リスクへの対応」に関する記述があるが、取組の方向性に記述する必要はないか。 また、取組の方向性に消防団、自主防災組織、住民等の関係づくりに関する記述を入れる必要はないか。
当日質問・意見	
回答	訪問型火災予防啓発は近年の社会情勢から実施が困難な状況となっている。リチウムイオン電池による火災についてはメディア等を通じた全国的な啓発が進んでいる。住民等との関係づくりについては大切なことと認識しており、地域の防災行事への参加や各種訓練、啓発活動等の機会を通じて取り組んでいきたい。
審議	なし
取り扱い	☐ 答申書に掲載する／ ☒ 答申書に掲載しない ☐ 計画書の修正を求める／ ☐ 取り組みを求める／ ☒ 特に何も求めない
文言	
市対応	☐ 済／ ☐ 要／ ☐ 不要
事務局	
主管課	

⑬ 基本事業 1-1-2 の成果指標について

事前質問	【回答票（政策１）番号 13】 目標値を 0 でなく 1 としているのはなぜか。
当日質問・意見	
回答	火災発生件数を限りなく 0 に近づけることを目標とするが、当市のこれまでの推移と実情を踏まえ設定したもの。
審議	なし
取り扱い	☐ 答申書に掲載する／ ☒ 答申書に掲載しない ☐ 計画書の修正を求める／ ☐ 取り組みを求める／ ☒ 特に何も求めない
文言	
市対応	☐ 済／ ☐ 要／ ☐ 不要
事務局	
主管課	

⑭ 基本事業 1-2-3 の成果指標「救命士 1 人あたりの救急出動件数」について

事前質問	【回答票（政策１）番号 14】 「救命士 1 人あたり救急出動件数」が救命士の適切な配置を示すとする理由について。
当日質問・意見	
回答	これまで、人口に占める救命士の数を指標として救命士の配置水準を測定して

基本計画（政策１）

		きたが、今後人口減少が見込まれる中で、救命士の数が不変であっても人口が減少することで、特段の取り組み無く指標が改善してしまうことが課題であった。これを踏まえ、救命士１人あたりの出動件数の側面から救命士の配置水準を表現し、救命士の負担が不適正とならない配置水準を目標値として設定したもの。
審議		あり
委員		救命講習の受講者数について、消防の努力のみで向上が図れないとする理由は。
市		SNS等の様々な媒体の活用や直接の声掛け等により講習参加の呼びかけを行っているが、相手の応諾がなければ講習受講につながらないためである。
委員		救急救命体制に影響を与える要因として、救急車の適正利用の問題がある。真に救急を要する者のため、限られた行政資源を有効に活用するために、相談電話番号である#7119について啓発を行っていく必要があるのではないか。
市		適正利用については周知する一方、必要時に躊躇することの無いよう、判断に迷う場合は救急車を呼ぶようにも伝えており、バランスが難しい。なお、本市からの#7119の利用件数は年間200件程だが、相談後に救急車を利用する件数も相当数ある。
委員		#7119と119は連動しているのか。
市		連動はしていない。
委員		救急車を呼んだ時には具合が悪かったが、到着時には症状が改善しているケースがあるが、そのようなときは病院に搬送してもらうことはできるのか。
市		質問のケースは確かにある。症状は自身にしかわからないものであるため、そのまま病院に搬送することは問題ではない。症状が改善したため搬送を固辞する人もいるが、心配が残る場合は搬送対応を行っている。
委員		デイサービスに勤める知人が、利用者の症状急変で救急車を呼んだが、利用者には認知症があったこともあり、救急車到着時には何事もない状態であった。その際、救急隊員に元気な人が救急車を呼んではいけないと怒られたと聞いた。
市		市民から苦情をいただくこともあるが、救急隊員には接遇を重視するよう日頃より注意している。隊員が一刻を争う中で、コミュニケーション上の受け取り方のズレが生じた可能性がある。現場の状況に応じ、受診方法に関する提案を行うこともある。
取り扱い		☒ 答申書に掲載する／ ☐ 答申書に掲載しない ☐ 計画書の修正を求める／ ☒ 取り組みを求める／ ☐ 特に何も求めない
文言		利用控えを引き起こさないよう留意しつつも救急車の適正利用の啓発に力を入れ、限られた行政資源が有効活用されるよう取り組んでいただきたい。
市対応		☐ 済／ ☐ 要／ ☐ 不要
事務局		
主管課		